

『日本靈異記』「僧用涌湯之分薪而与他作牛
役之示奇表縁」

【之】

僧用涌湯之分薪而与他作牛役之示奇表縁
僧湯を涌す分(わけ)の薪を用いて他に与へて
牛と作りて役(つか)はれ奇しき表を示す縁

〇

捉之申宮

捉えて宮に申す

請僧見之

僧を請(むか)へて見れば

不誤繪之持来

誤たず繪きて持ち来れ

進之於官

宮に進(たてまつ)る

「進-之」と動詞で理解してる

宮見之

宮見れば

其斯謂之矣

其れ斯れを謂ふなり

【所】

〇

無憇所驅

憇ふこと無く驅(おひつか)はる

↑受け身